

御射鹿池

(みしゃかいけ)



全景



新緑の湖岸

ため池の概要

ため池の所在地

長野県茅野市

ため池の特徴

御射鹿池は、日本画の巨匠・東山魁夷画伯の作品「緑響く」の取材地として有名な池で、木々の緑が映りこむコバルトブルーの水面は訪れる人たちを魅了しています。

標高1,100mを越えるこの地域は、かつて3年に1度米がとれればよいといわれた冷害常習地で、しかも水源の渋川の水は冷たい上に強酸性でした。

昭和8年に完成したこのため池で、水を希釈し温めることによって農業用水として使えるようになり、水稻の収穫量や作柄は大きく改善されました。

「御射鹿池」の名は、この地域が神野(こうや)と呼ばれ鎌を入れることも許されなかった神の御狩場であり、諏訪大社上社の御頭祭(おんとうさい)の時に神に奉げる牝鹿を射る神事(御射山御狩神事)があったことに由来すると伝えられています。

八ヶ岳中信高原国定公園内の風致を維持するための特別地域に属しており、カモなどの渡り鳥やトンボ類(ルリイトンボ)・蝶などが見受けられます。

在来の植物(桔梗、ゆり等)を随時植栽したり、堤体の草刈りや枯れ木の伐採や枝打ちなど、美しい景観を守る活動も継続的に行われています。

湖水はpH4前後の強酸性であることから、湖底には酸性水を好むチャツボミ苔が繁茂し、また湖面には木々がきれいに映ると言われています。

関連情報